

美術

「想像」と「創造」の往還を通して、 見方や考え方、感じ方を深める授業

授業中に、こんな生徒はいませんか？

- 「こだわりが強く、進まない生徒」
- 「線1本さえ引かず、机に伏せる生徒」
- 「どうしたらいいか、すべて頼る生徒」

こんな場面こそ、意気に感じて思考！

授業者は生徒と向き合い、授業者自身とも対峙することが、表現に誘う入り口になります。

そんな感性豊かなひらめきから、授業が始まります。



県中教研 美術部 全県部長
五泉市立村松桜中学校

校長 稲生 一徳

見方や考え方、感じ方を深める「表現と鑑賞の相互の学習」

「美術を教える」から「美術を通して学ばせる」へと、授業者の意識改革が求められるようになり30年が経過しました。

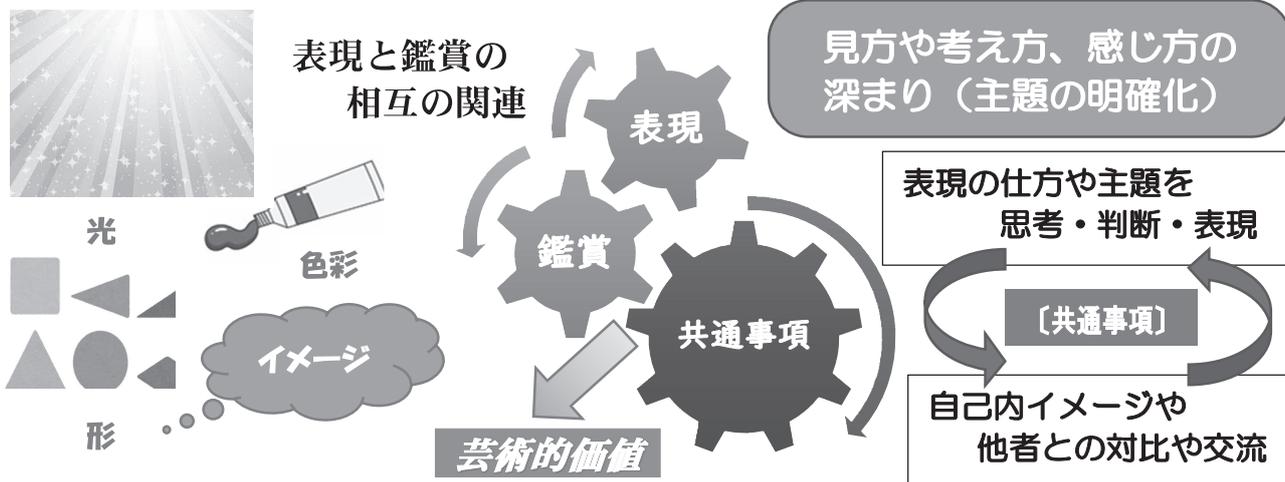
現行の学習指導要領の学習内容として、「見方や考え方」と、他教科にはない「感じ方」が示されていることが美術科特有の教科性です。

そして、「表現と鑑賞の往還を通して身に付ける資質や能力は、造形的な見方や感じ方である」と、〔共通事項〕に基づき明快に説

明できます。

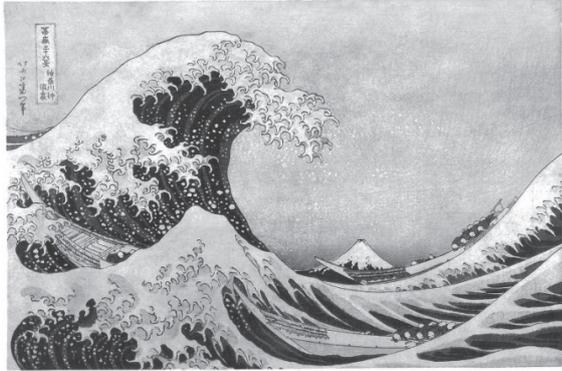
菅原先生（柏崎東中）の水墨画の授業、そして青木先生（新津第一中）のピクトグラムの授業ともに表現と鑑賞の相互の学習です。そして、指導計画に基づき造形的な見方や考え方、感じ方を深めていく授業です。

生徒が、自分にどんな資質や能力が身に付いたのか、自分の課題は何かなど、次の学習改善につながる視点をもたせることが評価の根拠になります。



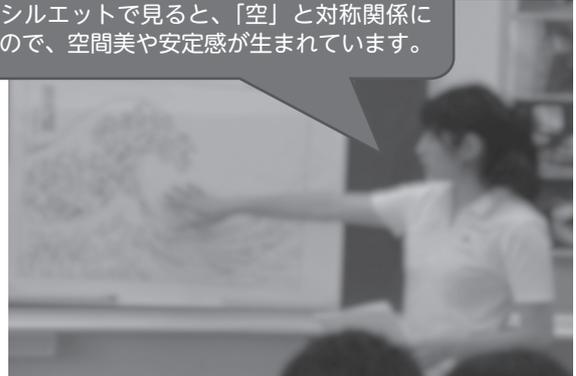
見方や考え方、感じ方を深める「造形の要素の効果」

日本の美術作品として、海外でも人気の葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」には、人を魅了する何かが秘められています。そこで、北斎の構図の工夫を読み解かせることで、表現意図



に迫らせます。すると、生徒は自分なりに感じ取った作品の美しさやよさを述べることができます。

画面中央の「富士山」を中心点にして「波」の形をシルエットで見ると、「空」と対称関係にあるので、空間美や安定感が生まれています。



見方や考え方、感じ方を支える「内発的動機付け」

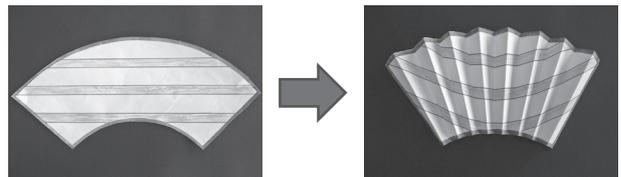
日本特有の表現形式に扇子があります。

扇子を開いた瞬間、描かれているものに雅さや「用の美」を感じます。

しかし、イマドキの生徒に、その魅力や日本の美しさを表現したくなるようにするためには手だて（内発的動機付け）が必要です。

“驚き”や“楽しさ”に、気付かせたことから始めた授業の実践を紹介します。

「扇面に、水平方向に引いた直線は、扇子状に折り曲げるとどのように見えますか？」



扇子状に折り曲げると見え方が変わるぞ！折り目の凹凸が逆なら見え方が変わるのかな？

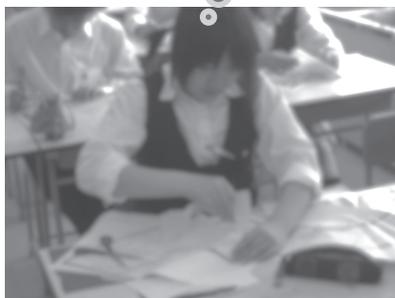
末広りの構図にするため、レイアウトを工夫しよう！



扇面の下絵を扇子状に・・・



扇面の下絵と扇子状に折り曲げた下絵とを、末広りの構図を観点に対比する。次に、表現の仕方を選択してトリミングしたり、レイアウトしたり試行しながら、下絵の意匠として修正していく。



美術 重点方針

「美術を通して、豊かな生き方やコミュニケーションができる生徒の育成」

○ 形や色彩など造形的な美しさを表現したり、鑑賞したりする授業を通して、お互いの見方や感じ方を深める生徒を育てる。

美術 <上越地区／柏崎市・刈羽郡中教研>

11月12日(火) 研究会開催

研究主題：豊かな生き方を目指す美術授業

単元名：「2年：水墨画」

会場校：柏崎市立東中学校

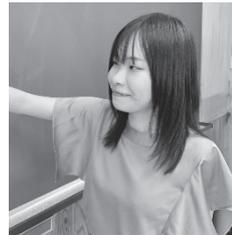
公開：2年2組

授業者：菅原 由真

指導者：上越市立柿崎中学校 校長 大塚 啓 様



研究推進責任者
柏崎市立第二中学校
阿部 昭比古



教科・領域担当者
柏崎市立東中学校
菅原 由真

こんな深い学びの姿を目指します

「美術を通して、コミュニケーションができ、豊かな生き方ができる生徒の育成」を軸とし、次の2つの姿を目指します。

- ① 仲間の作品や参考作品などの様々な作品からよさや美しさを感じ取り、表現の多様性を認め合う姿
- ② 表現と鑑賞の往還を通して、考えをまとめ、自らの思いを確かにしていく姿

主な手立て(「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連)

ポイント1 (「深い学びの技法」のNo.4)

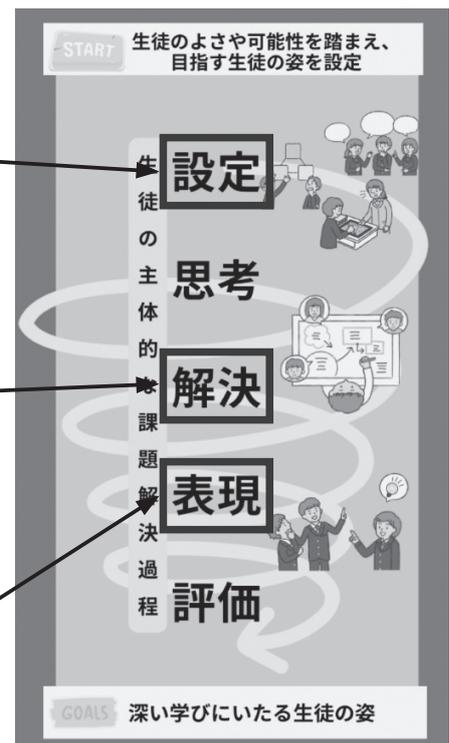
「みる」行為をより身近にするために表現との往還の場面を複数設定する。

ポイント2 (「深い学びの技法」のNo.10)

多様性を認め合うことで共感力を養う。他を受け入れる雰囲気づくりを目指す。

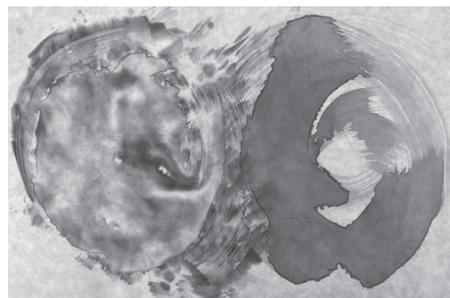
ポイント3 (「深い学びの技法」のNo.15)

自他の作品について理解を深めることで構想を引き出し、豊かな表現に繋げていく。



単元(題材)の様子

- ① 水墨による様々な表現効果を自ら発見するための技法体験活動を行います。描画材として、墨だけでなく白抜き剤等を使うことで表現の幅を広げます。題材の冒頭ではあえて既存の作品は提示せず、ほぼゼロの状態から表現効果の奥深さを発見し、感動に換えていけるよう授業を展開します。



- ② 発見した偶然の効果をiPadで撮影し、表現を引き出した過程を含めてオクリンクを利用して共有します。これにより、「みる」行為によって他の表現からそのまま刺激を受けるだけでなく、自身の表現との融合をも期待でき、次時以降の表現の幅の拡大が期待できます。

ポイント1

ポイント2

- ③ まとめでは、仲間の表現をみて気づいたことをワークシートに自分の言葉でまとめます。そして、自身が生み出した表現効果とともにどのように作品に取り入れ、生かしていくかをイメージし言葉に残します。「イメージ→言葉→イメージ」を繰り返すことでイメージの具現化を目指します。これらが、本時の活動によって生まれた思いやわくわく感を次時の表現活動に結び付ける手立てとなるよう、また、自己の表現をより深めるためのきっかけとなるよう、まとめの展開を目指します。

ポイント3

研究会

- ④ 表現「水墨画」を題材とした実践に取り組みたいと考え、研究を進めてきました。推進委員により協議・実践・参観を重ねた結果、生徒の表現意欲と表現や見方に関わる自己肯定感を高めるために、表現と鑑賞の行き来(往還)を学びの中に設定することを基本に授業を組み立てることとしました。



1年次に行った鑑賞に特化したプレ授業

をもとに、「表現と鑑賞の往還」を学びの中にどのように設定していったらよいのか議論を深めてきました。その結果、既存の表現にとらわれることなく、自ら水墨の表現の可能性に気づくことをスタートラインとし、水墨の世界を深めることで自己表現へと発展させていく流れに行きつきました。

研究会当日は、偶然の効果も含めた水墨の多様な表現効果を発見し、驚き、共有することを目的とした技法体験のための授業を行います。自己の表現を深めるための重要な橋渡しの1時間となるような授業展開を目指します。

ポイント1・2・3

美術 <新潟地区／新潟市中教研>

11月7日(木) 研究会開催

研究主題：豊かな感性を養い、主体的に創造活動を楽しむ
生徒の育成 ～往還でひらめく深化した学び～

単元名：「3年：つぶやきのピクトグラム」

～身の回りのあるあるをわかりやすく伝える～

会場校：新潟市立新津第一中学校

公開：3学年

授業者：青木 智

指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 堀田 雄大 様



研究推進責任者
新潟市立東石山中学校
山際 保男



教科・領域担当者
新潟市立新津第一中学校
青木 智

こんな深い学びの姿を目指します

「できるかもしれない」「面白そう」が原動力となって、行きつ戻りつしながら、自分なりの答えにたどり着く授業を目指します。題材について、視点・観点・論点を設定し、自分なりの意味や価値を探りながら主題を設定します。既習事項を活用し、他者との意見交流を経てアイデアを磨き上げ、自分の考えを作品として表現していきます。互いの作品を鑑賞し、良さや感じ方など多様な価値観を受け入れ、自分の見方や考え方を広げていこうとする姿を目指します。

主な手立て（「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連）

ポイント1（「深い学びの技法」のNo.3）

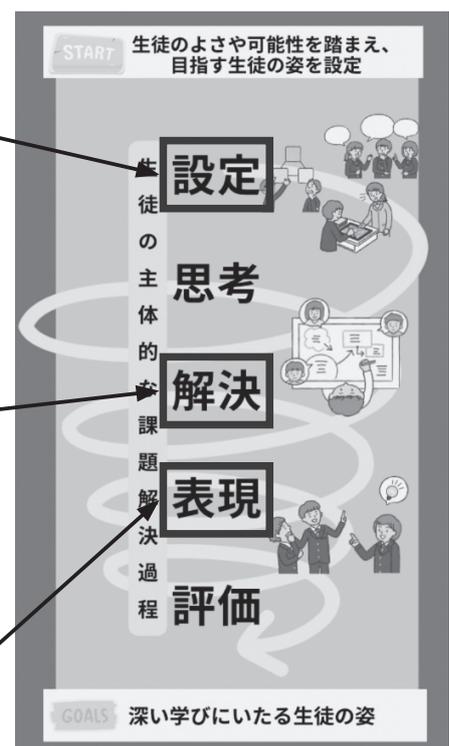
視点・観点・論点を設定して思考や表現をする
ピクトグラムのデザインにかかわる学習を通して視点・観点・論点を整理し、自分なりの主題を設定する。

ポイント2（「深い学びの技法」のNo.10）

仲間と練りあいや練り上げをする
グループで協働し、各々のアイデアを検討する。他者から改善へのヒントを得ると同時に、自己の知識や発想を発揮して他者のアイデアを磨き上げる。

ポイント3（「深い学びの技法」のNo.14）

学習モデルを活用して思考や表現をする
ポイント2で学習したことを応用し、自己の作品制作に活用する。



単元(題材)の様子

- ① ピクトグラムデザインのデザインに関する色・形の共通したルールを学習します。デザインの視点・観点・論点を整理することにより、共通認識のもと表現を語るできるようになります。

ポイント1

- ② 主題となる「わかる人にはわかる」特定少数に向けたアイデアをみんなで考え、共通のアイデアの引き出しを作っていきます。他の生徒が学んだ知識を、発想することが苦手な生徒へ活用することができます。

	種類	意味	色	形
	禁止標識	してはいけない(禁止)	赤	円形に斜線
	警告標識	危険(警告)	黄	正三角形
	指示標識	しなければならない(強制)	青	円形
	安全標識	安全装置と非常口の標示	緑	正方形、長方形
	火気安全(防火)標識	防火	赤	正方形

- ③ 個人で考えたアイデアを、ICTを活用し、4人班で共有ノート上でより面白く伝わるアイデアに構想します。一つの案を協働し、各自の知識やアイデアを発揮してより良いものにする方法を探ります。

これにより、伝えようとするアイデアをさらに伝わるように改善するための色の工夫、形の配置に具体的な見通しがもてるようになります。

ポイント2



- ④ グループ検討での修正案や改善の見直しをもとに、作品の制作をします。完成イメージを明確にもち、主体的に制作に臨むことができます。ペイントアプリを活用することにより、形や色を短時間で躊躇なく検討を重ねることができ、より良いデザインに練り上げることができるようになります。

ポイント3



研究会

ポイント1・2

- ⑤ 研究会では、個人のアイデアを班のメンバーで協力してより良くする構想を考えていく予定です。一人ひとり目指す主題が違うため、デザインにおける共通した色や形の視点や観点をもって検討をしていくことで、各自の知識や経験を発揮し、活発な議論が交わされ、自己のデザインの課題解決の見直しを立てることを目指した授業を行います。



- ⑥ ペイントアプリ「ibis Paint」を活用して作品を制作します。形の配置や変形、色の変更など自在にできるので、描く・塗ることが苦手な生徒にも意欲的に制作に取り組みます。最後に、制作の過程を振り返り、他者の多様な価値観に触れ、自分の見方・感じ方を広げていこうとする姿を目指します。